

終わってしまいましたが、オリンピックについての記事を掲載します。

以下の4つの論文は、日本のオリンピックの姿を、公平に客観的に把握した、極めて評価すべき論文と言えるでしょう。なによりも日本の今の惨めな姿を、素直に認めているところが信頼できることです。

【下】日本でのオリンピックの「位置づけ」もしっかりとせず、「コロナとの関係」も何ら意見を述べず、ただ単に成り行きに任せた無能な菅「自民党政権の無策」への批判

オリンピックはヒトラーの時代から「国家の威厳の発揚」に利用されてきたし、最近ではオリンピックで頑張る選手たちを利用して「企業の製品を売るために利用」されてきたという事実認識の必要性

今回の東京オリンピックでは、日本でも世界でも「オリンピックどころではない」という人たちがたくさんいました。「楽しめない人」に配慮して、今回のオリンピックは中止にすべきでした。

今回のオリンピックでは、世界中に日本の未熟さを伝える結果になりました。「日本の衰退」を素直に認めたくらんで、新たな出発をするためのきっかけになればよいと思います。

オピニオン

論点

東京五輪で見た「病理」

東京オリンピックが行われている。五輪史上、これほどさまざまな問題に直面した大会はなく、五輪後も新たな問題が浮かび上がってくる可能性がある。各界に幅広い人脈を持つプロデューサーの残間里江子さんと、ノンフィクション作家の柳田邦男さんに五輪をテーマに寄稿してもらった。

残間 里江子
プロデューサー

柳田 邦男
ノンフィクション作家

「曖昧さで延命」の果て

「曖昧さで延命」の果て。オリンピックの開催決定は、多くの問題を抱えている。その中でも、最も深刻な問題は、開催決定の過程における曖昧さである。この曖昧さは、多くの犠牲者を出している。この曖昧さを打破し、明確な意思決定を行う必要がある。...

論点

東京五輪終え日本は

東京オリンピックが閉幕した。1年延期したうえで無観客開催となったにもかかわらず、期間中は新型コロナウイルスの感染が拡大した。開会式直前に関係者の過去の問題発言が次々明らかになるなどのトラブルにも見舞われた。五輪強行があらわにしたこの国の現実を見つめ直し、今後の五輪と日本を考える。

田中 優子
法政大前総長

中島 岳志
東京工業大教授

「楽しめない人」想像したか

「楽しめない人」想像したか。今回のオリンピックでは、日本でも世界でも「オリンピックどころではない」という人たちがたくさんいました。彼らの存在を想像し、配慮するべきでした。...

メディアの拠点ムスリムに不評

礼拝室、ハラール料理なく

「ムスリムの拠点」が、性差別や、五輪招致時のスピーチで「イスラム教の教義に反する」として、ハラール料理を提供しないことを批判している。...

【左】実はこれが大問題にならなかったのは幸いだったと思います。それは、**プレス関係のところに「ハラール」の食事が準備されていなかった**ことです。福岡市の通常のホテルならどこでもイスラム教徒のための食事＝ハラールが準備され散るのですが、このあたりも実にいい加減で人権感覚のない恥ずかしいオリンピックでした。

東京の Grandpa Grandma 見て

母が日本育ち シェアフレ絶対好調

東京のGrandpa Grandmaを見て。母が日本育ちのシェアフレ選手は、ゴルフ競技で活躍しています。彼の成功は、日本のゴルフ界に大きな影響を与えています。...

【左】私は今回のオリンピックのゴルフ競技では左のアメリカ代表の**シャウフェレ**選手を応援していました。彼は現在世界のトップクラスの選手なのですが、彼の祖父母が日本人であることを知っていたからです。金メダルを取ったのでうれしかったです(笑)。もう一人のアメリカ合衆国選手**コリン・モリカワ**選手も日系のアメリカ人でしたのでこの人も応援していました。日本代表の**松山英樹**君の応援もしているのですが、彼はスロープレーヤーなので、見ていてイライラするのであまり好きではありません。

現代が学べる 志成館

